

問題を解決する力、人と適切にかかわる力を育成する「稲佐チャレンジタイム」

長崎県長崎市立稲佐小学校

長崎県長崎市稲佐町 11-1

電話番号：095-861-2650

E-mail:e32@nagasaki-city.ed.jp HP アドレス：http://inasa-e@nagasaki-city.ed.jp

学校や地域に関する情報

(1) 学校規模

児童数 350 名、教職員数 20 名、学級数 13 学級

(2) 学校の教育活動の特色

平成 15 年に「稲佐省エネ共和国」を建国し、全児童・職員で省エネ活動に取り組んでいる。昼休みには各クラスから選ばれたパトロール隊が、水道の止め忘れや電気の消し忘れがないか、校内の点検をしている。

(3) 地域の特色

歴史のあるまちで、幕末にはロシア人居留地として発展し、ロシア人墓地も残されている。1991 年にロシアのゴルバチョフ大統領も訪れた。

警察署や郵便局などの公共施設があり、昔ながらの商店街も残っている。地域は学校の教育活動に協力的である。

動をする)・「はっしん」(伝える)の探究的な学習過程を通して育成する。なお、この学習過程は、内容に応じ「ほっとけん」から「さらにほっとけん」に発展したり、「ほっとけん」「はっしん」「ほっとけん」とスパイラル的に展開することもある。

また、「育てたい力」の中から各学年ごとに重点目標を決め、児童にも分かりやすい言葉で、各教室に掲示をしている。年間を通して、常に教師と児童が目標を意識しながら学習を進めている。

3. 内容

全学年で共通して行う環境教育や平和教育と、各学年で年間を通して行う大単元とを設定している。3年生ではまちを案内しながら自分が知った稲佐の良さを伝える地域学習。4年生は誰もが住みやすいまちにするために実践的な活動を行う福祉学習。5年生は被爆者や被爆校の児童との交流をしながら平和への思いを高める平和学習。6年生では省エネを意識した環境学習を行っている。

活動がマンネリ化しないよう、年度末には活動の見直しと修正を行っている。

4. その他の特色

本校ではワークショップ型研修を積極的に活用している。主にワークショップ研修を行うのは、研究の方向性を定める際や授業研究会である。全職員が前向きに取り組むことができ、各職員の良さが生かされている。授業研究会では教育委員会の指導主事や大学の先生などの外部の専門家を積極的に招聘し、指導を仰いでいる。

また授業の中でも、意見を整理する際などには、ホワイトボードやカードを使ったワークショップの手法がよく使われている。

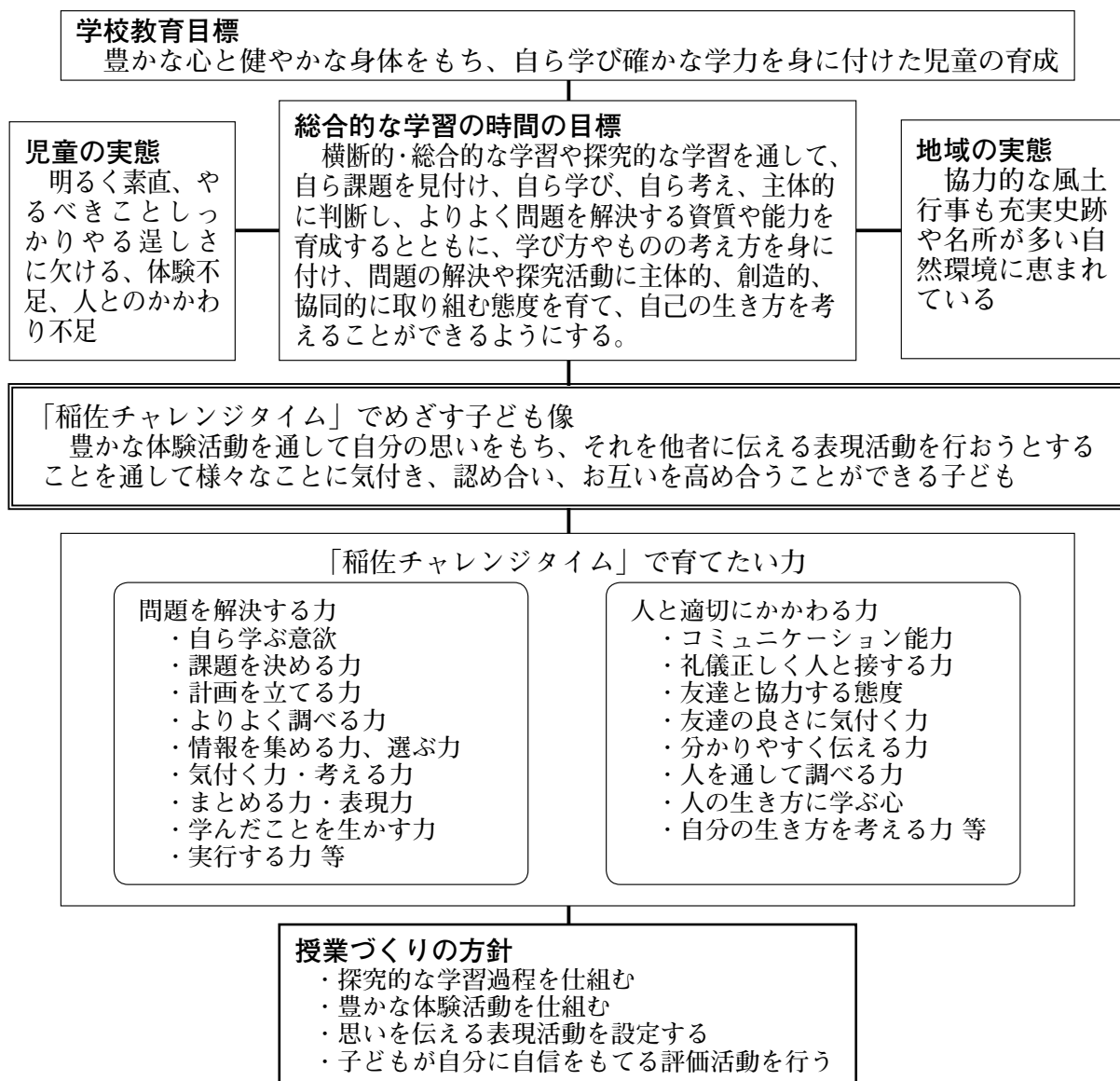
I 総合的な学習の時間の全体計画

1. 目標

「体験不足」「人とのかかわり不足」という児童の実態をもとに、探究的な学習を行う。単元の導入に「豊かな体験活動」を行うことで問題意識や活動意欲を高め、「表現活動」を単元の終末に設定することで、思いを伝える力を育成したいと考え、目標を設定している。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

児童の「育てたい力」を、「①問題を解決する力」「②人と適切にかかわる力」とし、この力を「たんけん」(問題に気付く)・「はっけん」(問題を設定する)・「ほっとけん」(調査・実践活



各学年の中心となる学習内容・学習活動

「たんけん→はっけん→ほっとけん→はっしん」の活動過程

3年	「大好き稲佐のまち チャレンジミニさるく」(地域) 稲佐のまちの地域文化や自然環境などの良さをまち探検や現地調査などを通して知り、その良さを外部の方に伝えるために、外部の方を連れて実際にまちをガイドしながら紹介する活動を行う。
4年	「だれもが幸せにくらせるまち大研究」(福祉) 高齢者疑似体験や地域の不便さ探しなどを通して、障がいをもつ人や高齢者など誰もが幸せに暮らせるまちにするために自分たちにもできることはないかを考え、実践する。
5年	「平和は稲佐から」(平和) 原爆資料館見学や被爆体験講話、平和学習に取り組んでいる近隣小中校との交流など、平和や戦争に関する学習を通して、平和を願う心をもち、自分ができることはないかを考え、実践する。
6年	「稲佐省エネ共和国」(環境) 現在地球上で起こっている環境問題を知り、それに対して、今の自分たちにできることは何かを考え、節電や節水などの省エネ活動や地域の環境美化などの活動に取り組む。

* 指導体制・学習の評価の計画等の詳細は、年間計画や単元計画において明示している。

II 総合的な学習の時間の実践事例

第3学年「大好き 稲佐のまち チャレンジ！ミニさるく」

1. 年間指導計画

3年生の題材は「地域」である。他の学年同様、3年生においても大単元を中心に総合的な学習を計画・実施している。学校の特色上、環境や平和等、他の内容も扱うがあくまで「地域」を題材とした本単元がチャレンジタイムの中心となる。本単元の概要は次のとおりである。

児童の地域に対する興味・関心を高めるために、1学期は、地域に何度も出かける機会を設定する。特に、本単元のメインの活動と言うべき2学期に行う案内活動につなげることを意識して対象と出会うよう考慮する。

2学期は、自ら決めた課題について調べてわかったことや追究していく中で生まれた地域への思いなどをまとめ、地域を実際に歩きながら案内するという活動を中心に学習を進める。長崎市の観光キャンペーン「長崎さるく」を参考に実施したもので、何度も繰り返し案内を行うことで、案内の内容や表現方法について見直しを行いながらスパイラル的に学習を進めることをねらっている。ちなみに、「さるく」とは、長崎弁で、「まちをぶらぶら歩く」という意味である。

最後の「はっしん」の過程では、本単元を通して学んだことや地域への思いの変容、身に付けた力等について振り返り、これから自分が地域へどのようにかかわっていくのか考えて締めくくる。そのために、これまでかかわってきた人や地域の人々に対して思いを伝える場として発表会を設定する。

2. 単元計画

(1) 単元設定の理由

○児童の実態

素直で活発な児童が多く興味・関心をもったことに熱心に取り組む。学級編制後、少しずつ友達関係が成立し、協力して取り組むことができるようになってきた。総合的な学習の時間は初めて取り組む学習であるので課題の決め方や追究の仕方等、学習の進め方を丁寧に身に付けさせる必要がある。問題に気付く力や情報を整理・活用する力などについては個人差があり、未知数である。表現する意欲は全般に高い。人懐こい児童が多く、人とかかわろうとする意欲が高い反面、地域の人に進んでかかわる態度は十分とは言えない。

○育てたい資質・能力・態度

下記の7つを設定したポイントは、次の2点である。初めての総合的な学習ということで学習を進める上で必要な資質や能力であること。

本校の育てたい力に基づき、さらに本題材の特徴をふまえたものであること。

- | | |
|-------------|--------|
| ・粘り強く取り組む力 | ・気付き力 |
| ・友達と協力する力 | ・表現力 |
| ・人と進んでふれあう力 | ・感謝する心 |
| ・地域を愛する心情 | |

○題材の価値

本校の周辺には、公園や商店街など児童にとって身近な公共施設がある。日本三大夜景の一つにも数えられる稲佐山の麓に位置し、川や海など自然にも恵まれている。また、近くには中国人やロシア人が埋葬されている国際墓地があり、国際都市としての交流史が残るまちでもある。国際墓地の入り口には、中国人墓地に縁のある蓮池があり、美しい蓮の花や多くの生き物が見られる市民の安らぎの場となっている。さらに原子爆弾被爆の被害を受けた地区でもあり、校区内外に被爆遺構も数多く残っている。寺社などの名跡も多く歴史的・文化的にも重要

な地区と言える。昔から相互扶助の風土があり、人情味溢れる土地柄である。こうした地域の特色を調べ、案内するという単元を構想した。

(2) 単元の目標

地域についての調査活動や案内活動を通して様々な人と進んでふれあう力や自分の思いを表現する力等を身に付けるとともに、地域を大切にする心情を養い、今後も積極的に地域にかかわろうとする態度を育てる。

(3) 単元の評価規準

①問題を解決する力

○地域に対する興味・関心をもち、様々な事象に気付き、自ら追究した課題を決定している。

○課題を解決するために主体的に粘り強く追究活動に取り組もうとしている。

○学習したことや思いを相手に分かりやすく表現している。

②人と適切にかかわる力

○友達と協力しながら学習を進めている。

○様々な人と進んでふれあいながら地域に積極的にかかわりながら生活しようとしている。

(4) 単元の活動計画 (全66時間)

経過	主な活動	教師の支援
たんけん 20時間	オリエンテーション 「チャレンジタイムってなあに？」 稲佐のまちの自慢できるところを考えよう 稲佐のまちをたんけんしよう ①まちの面白いものを発見しよう ②まちの人にインタビューしよう ③「長崎さるく」に学ぼう ④城山小の「ピース・ナビ」に学ぼう	○児童が期待感を抱くような話を簡潔に行う。 ・学習のねらいや内容、学習の進め方について ○ウェビングにより、自分たちのまちを見つめ直し、今年度の学習の中心となることを押さえる。 ○4度にわたり、まちへ出かけることで、まちの魅力や地域の人々の意識を探る。また、案内活動を見越した長崎市の観光案内事業「長崎さるく」や隣接校の平和遺構案内活動を経験させる。
はっけん 4時間	全体のテーマを決めよう 課題を決めよう ○課題毎にグルーピングを行い、追究活動の計画を立てる。	○「たんけん」の中で得られた感動や驚き、疑問などをもとに、こだわって追究できる課題を決めさせる。
ほつとけん 30時間	計画に従って、追究活動を行う。 ○地域の方への聞き取り調査。 ○現地調査。 ・図書で調べる。 伝えたい内容や思いを出し合う。 (中間報告会) 伝える方法について考え、案内活動の準備をする。 中間発表会をしよう ○お互いの発表を聞き合う。 ○中間発表会の振り返りをもとに今後の活動について考える。 チャレンジ! ミニさるく ○案内活動を行う。 ○案内活動をふり返って、内容や方法を修正する。	○個人で追究活動を通して得られた情報を選択・整理し、何を伝えたいのかをまとめさせる。 ○グループ毎に発表し合い、評価を行うことで伝えたい内容や思いを確かなものにさせる。 ○はっきり伝わらなかった場合は、資料の見直しや追究活動の見直しを行いフィードバックさせる。 ○どのような方法で表現すれば良いか、相手や場面を意識しながら準備を行わせる。 ○発表しながら相互評価を行う。 ○中間発表会の振り返りをグループ毎に行わせる。特に表現方法でよかったことを中心に出し合わせ、その後の活動の意欲付けとしたい。 ○実際にまちへ出て、伝えたいことを保護者や地域の人、お世話になった人に表現させる。

	○4回の案内活動をふり返って、学んだことや地域に対する思いの変容についてまとめる。	○様々な人の評価や自己評価をもとに内容や表現方法について見直しをし、より良い案内を目指して修正させていく。(案内は4回くり返す。) ○4回の案内活動をふり返らせ、人との関わりの中で学んだことや自分の地域に対する思いの変容等についてまとめさせ、発表会へつなげていく。
はっけん 12時間	稲佐大好き発表会の準備をしよう ○原稿や資料を作り発表の練習を行う。 稲佐大好き発表会をしよう ○お互いの発表を聞き合う。 これまでの活動を振り返り、これから自分にできることを考えよう ○1年間の学習をまとめ、これから地域にどうかかわっていくか考える。	○1年間の活動を振り返り、学んだことや地域に対 ○準備が整ったグループから発表練習に入り、相互評価しながら内容を充実させる。 ○互いの成長を認め、かかわってきた人への感謝の思いや地域への思い等について。 ○自分が学習してきたことを振り返り、これから自分にできることを考えさせる。 ○1年間のチャレンジタイムについてファイルをもとにポートフォリオとしてまとめさせることで、活動の総括を行わせる。

3. 学習活動の実際

<試行錯誤 初めてのチャレンジタイム>

初めての総合的な学習に取り組む3年生ということで、児童が期待感を抱き、生き生きと活動する姿となるよう学習を計画・展開していった。

オリエンテーションでは、学習のねらいや内容、学び方等について説明した。児童は、自分で決めた課題を追究することができるという点に惹かれた様子だった。

1学期は、「たんけん」(事実認識)から「はっけん」(問題把握・課題設定)までを実施した。

「たんけん」では4度にわたり、地域へ出かけた。国語科の単元「分かりやすく書こう」と関連付けて文章にまとめさせたり、地域の人へのインタビューをしたりしながら稲佐のまちへの認識を新たにし、学習材への興味・関心を抱くことができた。後半の2つの地域探検では2学期に行う案内活動を見据え、実際の長崎市観光ガイドさんに稲佐のまちを案内してもらったり、隣接校の城山小学校を訪ね平和遺構案内を受けたり

する活動を行った。この活動を通して、児童の中に自分たちのまち



を自分たちも案内したいという思いが自然と芽生えた。

「たんけん」活動を通して、得た様々な気付きや驚き、疑問や感動をもとに課題を決める「はっけん」では、児童は商店街や地域に残る史跡、自然等、多岐にわたる課題をそれぞれ決めることができた。しかし、中には、具体的な課題を決めることができない児童も出てきた。それらの児童は、再度興味のある場所へ出かけ地域の人と話をしたり、友達の問題を参考にしたりと試行錯誤しながら課題を決めるに至った。これは今回実施した4つの「たんけん」活動では、66名すべての児童に切実な思いや感動等を抱かせることができなかったことを示している。これからは、教師が事前に地域へ出かけ、すべての児童が主体的に追究したいと思える題材を発掘すること。そして児童にとって魅力ある題材と意図的に出会わせることを大切にしたい。そのことがより高い課題意識となり、その後の追究意欲へとつながると言えよう。

<情報の収集・整理・活用>

「ほっとけん」(追究活動)の過程では、共通の課題をもつ児童でグループを編成し、現地調査や聞き取り調査、図鑑等の書籍やインターネットを活用しながら追究していった。追究活動で得られた情報は、個人で選択・整理し、何を伝えたいのか文章にまとめた。中間報告会で

は、互いに伝えたいことを出し合い、相互評価を行うことで伝えたい内容や思いを確かにした。その上でメインの地域案内活動「ミニさるく」へ向けての準備を進めた。児童は個人やグループごとに案内する相手や場面、方法などを意識しながら教科等で付けた力や「たんけん」での経験を生かしていた。具体的には、紙芝居や劇、絵や写真を活用する案内方法を選択した。

＜いよいよ
本番「ミニ
さるく」>
第1回
目の「ミ
ニさるく」
では、保



護者や地域の方々をはじめ多数の参加者があり、どの児童もかなり緊張しながら案内に挑戦した。ある児童は緊張で言葉が詰まって言葉にならないほどだった。

4度にわたる案内活動で大切にすることは、評価である。自己評価はもちろん、友達との相互評価、参観者や教師による他者評価を次へ生かすスタイルで学習を展開していった。つまり、案内を行うごとに案内の内容面と表現面を様々な評価をもとに改善していくのである。評価の視点は、伝えたいことが分かりやすく表現できたかという1点である。まずは、がんばりを認め良かった点を本人に伝えることを徹底した。肯定的評価で児童のやる気を喚起したいという考えである。さらに質問やアドバイスと続く。この評価の流れで、児童は案内（表現）する楽しさを知ると同時に、「もっと詳しく調べて、分かりやすく伝えたい！」という思いを抱いた。休日に歴史文化博物館へ取材に行ったり、蓮池を案内するために蓮池に棲むザリガニを捕まえて実際に案内の際に活用したりと、時間を見つけては内容・表現両面をさらに向上させようとする姿が見られた。また、友達のために図鑑や資料をもってきて情報交換を行うなど協同的な学びも展開された。このように児童は、「ミニさるくバージョンアップ大作戦」を

合言葉としてより良い案内を目指し、意欲的に追究を進めた。

＜「ミニさるく」を終えた児童の感想＞

○案内が成功したのは、コミュニティセンターの藤田さんのおかげです。友達からたくさんほめてもらったり、アドバイスをもらったりして自信ができました。もう1回案内したいです。皆さん、いつかわたしの案内を聞いてください。

○ぼくは今まで稲佐のまちなんでどうでもいいやと思っていたけれど、今は大大大好きになりました！わけは地域の人にいろんな話を聞いて稲佐のまちは優しい人がいっぱいだと思ったからです。また、稲佐のまちは国際墓地があるから、すごいまちなんだなと思いました。

＜成果と課題＞

成果として、まずは、案内活動を中心に据え、様々な評価を生かす学習を仕組んだことにより探究的に学習を進めることができた点が挙げられる。これは、「自ら学び高め合う力を育む総合的な学習」～気付き・認め合い・共に伸びる児童の育成～という本校のテーマとも関連する。案内自体が表現力を必要とする活動である上に、様々な評価を得ることで表現する喜びや楽しさを味わうことができた点も大きい。また、人とのかかわりが不可欠な活動だったため、友達と協力する力や人と進んでかかわる力を自然と身に付けることができた。さらに、児童の地域への思いが深まり、これまで以上に地域へ自らかかわろうとする意欲が高まった。地域の方へのあいさつやゴミ拾いなど、できることを自発的に行う姿に表れている。

課題としては、まず、校外に出る機会が多いので、児童の安全面をいかに確保するかという点が挙げられる。4度の案内活動で児童の案内自体は高まっていったが、「ミニさるく」への参加者が思った以上に増えず固定化された感があった。児童の意欲に応える意味でも、より多くの人の参加を呼びかける工夫が必要である。

小学校編作成協力者（五十音順）

江 間 史 明	山形大学教授
小 川 聖 子	埼玉県加須市立元和小学校教頭
久 野 弘 幸	愛知教育大学准教授
久保田 智恵美	新潟県上越市安塚中学校教頭
田 中 稔	杉並区立済美教育センター統括指導主事
中 澤 美 明	北海道教育委員会主査
奈 須 正 裕	上智大学教授
原 田 信 之	岐阜大学准教授
松 本 謙 一	富山大学教授、富山大学人間発達科学部附属幼稚園長
村 川 雅 弘	鳴門教育大学大学院教授

（職名は平成 22 年 6 月末日現在）

小学校編ワーキンググループ委員（五十音順）

尾 上 伸 一	横浜市教育委員会南部学校教育事務所主任指導主事
酒 井 達 哉	兵庫県篠山市立大山小学校教諭
舘 岡 真 一	新潟県上越市立高志小学校教諭
永 野 理英子	横浜市立大岡小学校主幹教諭
新 倉 美和子	神奈川県海老名市立海老名小学校教頭
三 田 大 樹	東京都新宿区立大久保小学校主任教諭
矢 島 俊 樹	長野県中野市立豊井小学校教頭

（職名は平成 22 年 6 月末日現在）

なお、文部科学省においては、次の者が本書の編集に当たった。

平 林 正 吉	初等中等教育局教育課程課長
宮 崎 活 志	初等中等教育局視学官
山 田 素 子	初等中等教育局教育課程課学校教育官
田 村 学	初等中等教育局教育課程課教科調査官

